続編。千葉県古民家訪問記。南房総市平久里　「若林家住宅」（古民家「ろくすけ」。）
訪問日　二〇二三年五月一日。

古民家「ろくすけ」も、千葉県の古民家を検索していた時にヒットした。千葉市内にある「ＮＰＯ法人　千葉自然学校」が運営している。そして、やはりというべきか、公共交通機関を使っていくのがすごく不便みたいだ。ＪＲ内房線岩井駅から市営バス、または東京八重洲、新宿バスタ、横浜駅、千葉駅から高速バス「ハイウェイオアシス富楽里（ふらり）」からも市営バスで行くことができるが、それ以外はタクシーしかない。然もこの市営バスとのアクセスもすごく不便である。休日は午前と午後それぞれ一本のみ。地元の人のバスであるから、それはやむを得ないことである。岩井駅周辺、或いは富楽里周辺での宿泊も考慮した。幸い、当日のボランティアの方が富楽里からタクシーに乗車するとのことで同乗させてもらった。もし車とタクシーなしでここを訪問する場合は、宿泊施設を事前におさえておくことをお勧めします。

古民家「ろくすけ」の歩みについて軽く述べる。二〇〇四年（平成十六）に空き家になっていた当家を千葉県商工労働部観光課の仲介にて千葉自然学校が体験交流拠点及び職員宿舎として借用した。その後、二〇〇六年から八年（平成十八～二〇）にかけて農水省の「農村景観・自然保護保全再生パイロット事業」を受託して茅葺屋根を刺しがやで修理。二〇一〇年（平成二十二）には農水省の「広域連携共生・対流等対策交付金事業」にて浴室・トイレ等を修理。二〇一二年（平成二十四）からは千葉県「連携・協働による地域課題解決モデル」にて母屋を修理した。二〇一三～一四年（平成二十五～二十六）には厨房を加工整備した。二〇一七年（平成二十九）には萱刈と裏側茅葺屋根を葺き替え、同年六月一日に家主の若林昭典氏より建物を寄贈。また農水省「農泊推進対策交付金事業」にて簡易宿泊所として整備した。厨房、トイレ、浴室は現代風に改装した。今まで見てきた古民家はそれぞれ、民家園内、或いは資料館や博物館内に移築され、公開は行っているものの、宿泊施設として使われているのは、以前に訪問した新潟県門出の古民家のみであった。

東京駅八重洲口から高速バスに乗車する。二〇二〇年に感染が始まったコロナウィルス感染症も度重なる緊急事態宣言や行動制限と自粛、ワクチン接種などによってピークは過ぎ、普段通りのＧＷの様相となった。ＧＷにつきものの大渋滞に巻き込まれることなく、無事に「道の駅富楽里」に到着した。私の調査不足だったのだが、この時この道の駅は大規模改修を行っており、高速バスの停留所からタクシー乗り場へのアクセス方法が分からなくなってしまった。幸いすぐに携帯電話でボランティアの方と連絡が取れて、すぐにおちあいタクシーに乗車した。タクシーはどんどん街を離れて山里の方に走る。やはり今回の古民家は人里離れた場所にあるのだと、車窓を眺めながら考えた。

（私は事前にオンライン上の地図で調べることはあっても、グーグルマップで実際の風景を映し出して検索することをしない主義にしている）

タクシーから降りて、小さな山道を歩くと、目の前に長屋門が見えた。屋根の部分を補修しているようで、鉄パイプで足場が組んであり、茅葺屋根にはシートがかぶせてある。脇道を歩くと入母屋造りの母屋が見える。

修繕途中の長屋門、足場とシートが見える。母屋全景、新緑が映え渡る。

この「ろくすけ」〈若宮家住宅〉ともいい江戸時代後期の建築で、間取り形式は「文棟（ぶんとう）造り」である。「ろくすけ」は屋号である。その理由は分からない。茅葺のため、台所が火事になりやすいため、台所のみ別棟とした。南方系の系譜をもち主屋棟のほかに竈棟をもつ二棟造りのことであり、千葉県安房地方から上総、茨城県、沖縄等南西諸島に分布している。特に安房地方の館山市から南房総市にはこの形式の民家が広く分布している。二〇一九年（平成三十五）上皇様の退位に伴う一〇連休の時に房総のむらを取材した。園内の「安房の農家」、旧安房郡三芳村から移築した「旧平野家」及び「旧御子神家（みこがみけ）」がこの作りだったことを思い出した。二〇一五年（平成二十七）に房総のむらで開催された分棟民家のシンポジウムのコピーを頂いた。

玄関から入って十五畳の和室に座ってボランティアの遠藤様から話を伺った。今では珍しくなった柱かけの振り子時計がカチカチと時を刻んでいる。現存して実際に動いているのを見たのは、以前富山県五箇山で開催された南京玉すだれ全国大会の翌日に取材で伺った方の家で見たのみであった。現代の人たちにはこの音がうるさく感じる。前述の歩みでも述べた通り、当ＮＰＯ法人が関わるようになったのは二〇〇四年（平成十六）に紹介してもらった。当法人は自然体験を活発に行うことによって地域の活性化に結び付けようとのことで二〇〇三年（平成十五）に設立された。当時の堂本知事もこの活動に携わっており、古民家に住みたいとの意向でここが紹介された。然し警備がしにくいという状況の時に声がかかった。実際に来てみると落ち着くし、昔祖父母たちが自然の中で暮らしたことを子供た

ちに伝えたい、また職員の宿舎もなかったため家主の方より借りた。借りた当時は、永年の不在に伴う畳の傷みや、屋根の修復などを実施してきた。但しＮＰＯ法人のために資金不足であり、自分たちのみでできる限りの修繕を行った。勿論屋根の茅も、自分たちで集めて棟梁さんから教示してもらって張った。

この「ろくすけ」は元名主宅であり、長屋門や土蔵を有するのはそのためである。元々当平久里（へぐり　旧名では平群）に建っていたわけではなく、移築された。然しいつごろ化は不明である。今いる一五畳の和室には、おそらく式台の跡と思しき小さな内玄関がある。ある部屋の壁には水彩画や、手作りの凧が飾ってあった。凧の作者の名前が今風であった。このＮＰＯが関わるようになって以来、平久里地区の一部の人たちとツーリズムによる地域活性化を目指し、「平久里ツーリズム協議会」を結成した。そのメンバーたちと、ともかく子供の声がしないため、子どもの声の響く地域づくりをとの趣旨で、夏場の川遊び、冬場の凧揚げ大会を企画した。その凧あげ大会の時に県内の農業高校の高校生の宿泊体験があり、その時に作成されたという話を伺った。

囲炉裏の向こう側は近代的なキッチンになっている。白壁に掲げられた絵画や高校生の描いた凧。

この地域には前述した「平群ツーリズム協議会」がある。また千葉周辺の都市部にはＮＰＯの「千葉自然学校」が「シニア自然大学」を主宰しており、その卒業生たちがこの「ろくすけ」を応援すべく「ろくすけの会」をスタートさせ、そこのメンバーたちが地域の草刈り、祭り時の支援など、地域の方々からの教示によってソラマメや枝豆を育成して、冬場に味噌づくりをするという活動をおこなっていた。地域は人口が減少しているため、都市部より人が来ることは地元の活性化につながる。後述する、ろくすけの前に広がる棚田はろくすけの所有ではないが、草ぼうぼうで景観を損ねるために、地主の許可を得て、両者が草刈りを開始した。更に安房高校の生物部もこれにかかわり、ビオトープを作った。また地元の子供が少ないので、小中一貫校の中学三年生が卒業前に味噌づくりに参加したり、全員でイチジクの苗を植えたりという、宿泊施設でもあるが、どちらかというと都市との交流を進めている

施設である。この連休中も千葉県にあるヤックスストアー、（※ヤックススーパーマーケットのこと。千葉薬品グループが展開している。他にもドラッグストア、調剤薬局等もある。）が長年子供たちの体験活動を実施しており、それを千葉自然学校が受託して子供たちをこの場に宿泊させ、一週間キャンプを体験させるという活動も実施している。子供たち同士のみならず家族の宿泊も行っている。他にもハイキング、ドラム缶風呂、バーベキュー、石窯ピザ、野草採取、流しそうめん、田植え稲刈り収穫、正月飾り造り等、様々な「ろくすけ田舎暮らし体験」を行っている。

この家の中で私が一番注目したのが、ボランティアの方に話を伺った十五畳の和室にある神棚であった。大きく立派な造りである。今まで見てきた移築された古民家にも仏間に仏壇と神棚がある。然し神棚はどれもサイズが小さく質素なものばかりであった。仏壇に関しては、飛騨高山の飛騨民俗村、下呂温泉合掌村、飛騨荘川の里、或いは白川郷や五箇山の古民家では金ぴかの絢爛豪華な仏壇がある。浄土真宗の信仰の篤い地域であり、仏壇が極楽浄土を再現しているために大きくて光り輝くものであるという話を聞いたことがある。私は神道、神棚に対する知識を有していない。何か特別なものなのか、或いは有名な職人によるものなのか。ボランティアの方も、この地域でもこの神棚は珍しいらしく、この地域の祭りの際に屋台を作っていた大工が作成したものだと思うとのこと。この地域でもこのサイズは三～四軒ぐらいしかないとのこと。名主ゆえの格式だからだろうか。

仏壇と比べてもサイズが大きいことが分かる立派な神棚。囲炉裏のある部屋の向こう、台所は近代的な造りになっている。床の間にある掛け軸と武者人形。壁も障子も綺麗だ。

床の間の手前、ザシキの壁には賞状や、宿泊体験等の写真が壁に沢山貼られている。床の間の隣にあるナンドは宿泊体験で使う布団が沢山置かれ、本棚には沢山の古い書籍があった。こういう情景はやはりこの施設が貸し出しとして使われていることを物語っている。

ボランティアの方と野外に出て、他の建物の説明を受けた。まずは隣の土蔵から。この中には体験者たちによる手作り味噌が沢山保存されている。ものが保存されている蔵の内部を見たのは初めてであった。後ほど、ボランティアの方による、手作りの食事がふるまわれたが、その時の味噌汁はこれを使っている。さっぱりしたマイルドな味であった。

蔵の説明と見学が終了したら、次は棚田を見に行く。好天に恵まれ、ウグイスのさえずりが響き渡り春の心地いい日だったので、新緑が映えている。桑の木が植えてあり、ここを利用する子供たちが食べられるように、或いはジャムにしたりする。桑の実のジャム自体がなかなか味わうことができない。離れた棚田からろくすけの民家を眺める。少し前まで桜が満開だったので、さぞかしいい眺めだったことが想像できる。訪問時はツツジが咲き誇っていた。四季折々の景色を楽しめる。棚田に入ったことも、棚田から景色を眺めたのもこれが初めてのことであった。晴天だったのが最も幸いであった。

蔵の中で貯蔵している味噌樽。棚田から眺めた風景。制作した味噌を用いた季節の野菜たっぷりのランチ。

説明と見学が終わり、ボランティアの方とタクシーで富楽里へ戻った。私はここで別れて千葉方面へ行く高速バスに乗り換えた。

データー

問い合わせ先　ＮＰＯ法人　千葉自然学校

〒二六〇-〇〇一五　千葉県中央区富士見二-三-一

電話番号　〇四三-二二七-七一〇三　ＦＡＸ　〇四三-二〇二-七二三七

ＵＲＬ　http://www.chiba-ns.net　e-mail　info@chiba-ns.net

ろくすけの所在地　〒二九九-二二〇六　千葉県南房総市平久里市下一四四一

車　東京駅から約一〇〇分、千葉駅から約八〇分、横浜駅から約九〇分。

電車　ＪＲ内房線岩井駅から市営バスで約十三分、「堂の下」下車徒歩十五分、或いは岩井駅からタクシーで約十五分。（市営バスの本数が一日数本レベルなので、綿密な事前調査が必要です。）

高速バス　千葉駅から約七五分、新宿バスタから約八十五分、東京駅八重洲ターミナルから

約八十五分、横浜駅からも約八十五分。ハイウェイオアシス富楽里（ふらり）下車、市営バスで約十五分、「国保病院前」下車、徒歩三〇分。（市営バスに関しては前述のとおり、かなり不便です）。